

歴博甲本「洛中洛外図屏風」に描かれた犬馬場

藤原重雄(東京大学史料編纂所)

●はじめに

国立歴史民俗博物館所蔵「洛中洛外図屏風」

詳細画像:同館サイト>資料・データベース>Webギャラリー>屏風

現存最古の「洛中洛外図屏風」。『実隆公記』に永正三年(1506)土佐光信筆「一双画京中」の記事があり、さらに遡って祖型が成立。

屏風一双に、洛外の名所と市街地域(上京・下京)とを地理的な整合性をもって(絵地図として)併せ収め、四方四季の原則にもとづき景物を布置する。

市街地域を屏風左右隻へ振り分ける原理:

一条室町を基点に[東・南]と[西・北]を各隻に。札辻として象徴的な都市把握の基点。
(相国寺七重塔からの眺望)説は、取材でなく、屏風の画面構成という点では成立せず。
上京・下京の双子型都市構造と、屏風一双の構成は直接関係しない。

平安京の一条大路の内外という理念的な境界線。軸線としての室町通・小川通。

⇒祖型の成立は小川御所(義政・義尚・富子)が機能ないし記憶されている時期。

相国寺塔・室町殿焼失後、応仁・文明の乱後、1480～90年代。

*藤原「洛中洛外図屏風の祖型を探る—京中図を描く視点—」

(京都府京都文化博物館編『京を描く—洛中洛外図の時代—』、2015年3月)

[補訂]寺社建築からの年代絞り込みで、そのままの踏襲も難であるが、文明十四年(1482)から十六年に粉本が制作され、そこに小河御所が描かれていたという見解は先行して提起されている。

*鈴木充『日本中世都市建築の研究—中世末期京都の都市と武家住宅—』(未公開博士論文、1966年)

〈行事図像〉

祖型において、注文主に関わる出来事(ないしそれを想起することが期待された図像)が要所に配されていた可能性がある。転写・アレンジの過程において、元の意味内容が臙化して、行事風俗図像となっているか。

犬追物の場面は〈行事図像〉の一つ。将軍御所に近接して描かれ、意味ありげに見える。

●歴博甲本の犬馬場の位置比定

〈あの世〉説は無理。「特定の場所ではない」可能性まで。(「寛永絵図」を見たのか?)

*小谷量子『歴博甲本洛中洛外図屏風の研究』(勉誠出版、2020年2月。初出2014年)

定説となっているのは、高野川東畔の川崎村「犬ノ馬場」とする川嶋將生1989説。

*川嶋將生「川崎村の成立をめぐる」(『中世京都文化の周縁』思文閣出版、1992年。初出1989年)

川の描写の解釈。高野川・鴨川より東側を左隻[西・北隻]に収めるのは困難。

上京北端から上賀茂社までの地域に求めるのが穏当。

上京地域に小川が流れ込む途中の屈曲(現在は暗渠)を描いたと見なせる。
上京には(武家邸内とは別に)特定の場として(細川家の)「上の犬之馬場」があった。
その位置比定をしているのは小島道裕 2016 のみか。

*小島道裕『洛中洛外図屏風』(歴史文化ライブラリー、吉川弘文館、2016年3月)

地誌・地名辞典類の「射場町」の地名由來說の呪縛。

『雍州府志』「曾室町家之射場在斯処、今東面人家之後園有大石、」

射場町の東側は細川本邸内部。犬追物とは出てこない。「虎石」伝承は別の意味で正確か。

『応仁記』「東陣モ、上ハ犬ノ馬場・西蔵口、下ハ小川・一条マテ」→左隻の市街地

『不問物語』永正の錯乱「大宮ヲノホリニ蒐〔駟力〕通テ、上ノ犬之馬場口ヨリ押寄、」

古文書・古記録類から位置の確定は難しいが、固有名詞として地名表示に用いられる。

「犬馬場口」≡清蔵口。清蔵口付近に「上の犬之馬場」は所在。

●小川御所の位置比定

*小谷量子『歴博甲本洛中洛外図屏風の研究』(初出2014年)の記述の難点

*鈴木充『日本中世都市建築の研究—中世末期京都の都市と武家住宅—』(未公開博士論文、1966年)

*高橋康夫「描かれた京都」(中世都市研究会編『中世のなかの「京都」』新人物往来社、2006年)

→『海の「京都」』(京都大学学術出版会、2015年)再録:鈴木説の結論紹介、受容もされている。

『大日本史料』第八編十一冊(1926年刊)五六七～八頁:『長興宿祢記』・『晴富宿祢記』

悲田院と大応寺の関係(「跡地に移転」か?)。現在の大応寺と扇町公園の位置関係。

悲田院の泉涌寺山内移転は正保二年(1645)とされる。

大応寺の創建は天正十四年(1586)が穏当。

●妙覚寺の境内地

『北龍華由来及沿革』所収、元禄四年(1691)妙覚寺指図・同本文

一、日記云、天正十一年癸未(1583)八月廿八日、当山今之上京地、從秀吉公拝領、
明年三月廿八日、從二条妙覚寺至新屋舗遷於寺、

一、或説云、当山上京エ引移之後、寺檀木下清蔵ト申者、別居ノ地ヲ寄附、依之境内
弥増云々、

私云、此寄附之地者、北裏之年貢地ナリ、古来ノ老僧共書集候由ニテ、当山諸品記ト
云一冊有之、其中ニモ此事アリ、同事故略之、

「妙覚寺伽藍諸堂図」:天明大火(1788)以前の様子

北側が大きく削られている。現在の鞍馬口通りよりも北にまで境内域が広がる。

200メートル四方以上の正方形を収めうる区画

*国立歴史民俗博物館編『古図にみる日本の建築』(至文堂、1989年)

*関根龍雄編『妙覚寺史』(1990年)ほか割愛

犬追物の伝書にみえる馬場の広さ: 本式で約 130m 四方、略式で約 80m 四方。

「犬の馬場」地名と方形地割: 城・館の周辺(特に大手口)、河原・浜などの広大な土地。

* 服部英雄「犬追物を演出した河原ノ者たち—犬の馬場の背景—」(『史学雑誌』111-9、2002年)

* 服部英雄「旦過・犬の馬場・唐房」(同編『中世景観の復元と民衆像』花書院、2004年)

→ 服部『河原ノ者・非人・秀吉』(山川出版社、2012年)第一章に再編収録

* 小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』(青史出版、2005年)

境内地の北側: 賀茂六郷の大宮郷・小山郷の南端

* 須磨千穎『賀茂列雷神社境内諸郷の復元的研究』(法政大学出版局、2001年)

宝徳三年(1451)復元図: 「(草)御馬田」(神馬の秣田)が集中。

天文十九年(1550)復元図: 南端は実検から外れる。作人「青屋者」が濃密に分布。

「青屋町」= 道正町: 中世の清蔵口から近いが一町南ではある。地域としては木下。

「元禄十四年実測大絵図」(1701)に「非人小屋」: 史料上に居所としては見えず。

悲田院: 古代の救恤施設に由緒。後花園天皇の火葬塚。文明炎上時の様子。

●むすび

歴博甲本に描かれた犬追物の場面は上京の北辺部に設けられた「上之犬馬場」に比定。

小川御所・大永度御所は、上京北端にあって、細川本邸と犬馬場とに挟まれるように位置。

空間構造から(将軍権力の自立・自律性)を主張するのは、相反する事実。

* 都市の周縁部(一方で屋敷とは近隣)に、都市住民(階層とは別カテゴリー)の観覧をも意識した武芸競技スタジアム(馬場+棧敷=フィールド+スタンド)の再整備。

小川御所:

『宣胤卿記』文明十二年(1480)正月十日条「元細川右京大夫勝元遊覧所也、乱中有御所望、時々令渡給、花御所炎上以後為不断御所、」

* 『為広越後下向日記』延徳三年(1491): 細川政元、越後国府にて連日「犬馬場ニテ遊覧」。

『尋尊大僧正記』延徳二年五月十二日条「小川御所ハ自東山殿被進御台(富子)了、自御台如元細川ニ返給之、公方御座之在所也、其恐有之、不可存旨細川申入之、返上、仍鏡現〔香巖〕院殿(清晃)ニ被進之、」

上杉本「やうたいゑん」= 永泰院(細川頼之) * 今谷明『京都・一五四七年』237頁図

⇒ 潜在的な地主が細川京兆家の領域? 左隻で存在感を示す細川本邸。

周辺に存在の痕跡を残す被差別民

犬追物の開催に駆使される河原者

清蔵口付近に濃密に分布する青屋者

帰属する「河原」のない被差別民(土木作業に従事)

* 野地秀俊「京都の植木職人小考」(世界人権問題研究センター編『職能民へのまなざし』同、2015年)

* 野地秀俊「中世における千本と野口—河原者の場—」(世界人権問題研究センター編『中近世の被

差別民像』同、2018年)

*延徳二年(1490)、足利義視、日野富子より清晃(のちの義澄)へ譲られた小川殿を破却。

『北野社家引付』五月十九日条「小河御所為三条之御成敗、被仰付河原者悉壊取也、」

『多聞院日記』(妙音院朝乗五師日並)五月二十一日条「川原者数百人被出之、彼御所ニ被入畢、」

悲田院:由緒は古代、中世の東西悲田院、近世の岡崎悲田院村の系譜関係は確定困難。

*新村拓『日本医療社会史の研究』(法政大学出版局、1985年)

*村上紀夫「一七世紀京都における悲田院 試論」(上掲『中近世の被差別民像』、2018年)

参考:「四条の青屋」の所在地は崇親院の故地?

*下坂守「中世の「四条河原」考—描かれた「四てうのあおや」をめぐって—」(『中世寺院社会と民衆』思文閣出版、2014年。初出2010年)

歴史的な社会の中で職能に従事し、都市の周縁部に存在した被差別民(一部は悲田院に拠る)が、上京北端の再編や社会変容に伴い、外側へ追いやられてゆく流れ。

●参照した主な地図類

宮内庁書陵部編『洛中絵図』(1969年)

『洛中絵図(寛永後萬治前)』(臨川書店、1979年)*京大附図

白石克編『元禄京都洛中洛外大絵図』(勉誠社、1987年)*慶応図

松本利治『京都市町名変遷史』一・御所周辺・上京区(京都市町名変遷史研究所、1988年)

松本利治『京都市町名変遷史』二・西陣周辺(京都市町名変遷史研究所、1989年)

大塚隆編『慶長昭和 京都地図集成』(柏書房、1994年)

京都大学附属図書館「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」

国際日本文化研究センター「所蔵地図データベース」

立命館大学アトリサーチセンター「近代京都オーバーレイマップ」

国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」

谷謙二「今昔マップ」

京都市史編さん委員会編『地図にみる京都の歴史』(1976年)*『京都の歴史』附図の集成

京都市編『史料 京都の歴史』上京区(1980年)・北区(1993年)

高橋康夫『京都中世都市史研究』(思文閣出版、1983年)

高橋康夫『洛中洛外』(平凡社、1988年)

今谷明『京都・一五四七年』(平凡社、1988年)

高橋康夫ほか編『図集日本都市史』(東京大学出版会、1993年)

仁木宏「中世後期京都の都市空間復原の試み」(金田章裕編『平安京—京都』京都大学学術出版会、2007年)

山田邦和『京都都市史の研究』(吉川弘文館、2009年)

河内将芳『戦国時代の京都を歩く』(吉川弘文館、2014年)

仁木宏『洛中洛外図屏風』の上京(仁木・山田邦和編『歴史家の案内する京都』文理閣、2016年)

桃崎有一郎「中世京都北郊の街路・街区構造考証」(桃崎・山田邦和編『室町政権の首府構想と京都』文理閣、2016年)